

## 「安納いも」のブランド化支援 (鹿児島県)

- 種子島が発祥とされる「安納いも」のブランド化に向けて、島内統一の品質基準を普及組織がJAとともに作成。
- 品質基準を達成できる栽培方法や生産体制の整備を普及組織が支援。
- ブランド認証シールによる地域ブランド化を支援。品質の安定した美味しい安納いもを消費者へ。  
(生産額: 309百万円(H19)→1,662百万円(H23))

### (連携体制)

熊毛支庁農政普及課(普及センター)、西之表市、中種子町、南種子町、JA、生産者、加工・販売業者

### (普及組織の取組)

- ・安納いもの2000ほ場で甘さに関する成分(ブリックス値)を測定。食味検査に基づき、食味とブリックス値に相関があることを確認。これを踏まえた品質統一基準を作成。
- ・安納いも栽培マニュアルを作成し、研修会を実施。
- ・生産・加工・販売関係者で構成される「安納いもブランド推進本部」を設立し、ブランド認証シール作成等を支援。



安納いも



ブランド認証シール

## 「あまおう」の普及と産地技術の確立 (福岡県)

- 「あかい、まるい、おおきい、うまい」が特長のいちご。平成14年のデビュー後、高級いちごの代名詞として成長。
- 早急にブランド確立するため、生産者、JA、行政、試験場、普及が生産から販売まで一体となった取組を展開。
- 系統共販にしめる「あまおう」の販売割合は、導入からわずか3年後の平成16年度に100%となり、それ以降、販売単価は8年連続して日本一を記録。

### (連携体制)

普及組織、県農業試験場、JA

### (普及組織の取組)

- ・平成14年に商標登録された「あまおう」は、従来品種と特性が大きく異なるため、H14の導入以降、技術実証展示ほを設置し、栽培技術を確立。
- ・品種更新を短期間で実現するため、栽培手引き作成や現地での研修会等により、速やかに技術を普及・定着。
- ・収量が不安定(1~2月に減収)、炭そ病の発生等の課題を栽培技術で克服し、大玉で高品質な果実の安定生産を実現。



あまおう



現地での研修会

## 地元大豆「小糸在来」の商標登録支援 (千葉県)

- 地元大豆品種「小糸在来」を活用した産地づくりを普及組織、JA、生産者が一体となって取り組む。
- 普及組織が生産者に対して商標登録・権利化を提案。申請手続きを支援。
- 普及組織が栽培技術の体系化を支援し、生産規模が拡大(作付面積 枝豆0.5ha・大豆1.9ha(H16)→枝豆8ha・大豆20ha・オーナー制4ha(H24))

### (連携体制)

君津農業事務所改良普及課(普及センター)、JA、小糸在来愛好クラブ(生産者組織)、発明協会千葉県支部

### (普及組織の取組)

- ・生産者に対して、「小糸在来」の商標登録を提案するとともに、その方法について説明。
- ・「小糸在来」の栽培マニュアルの作成や増産に向けた機械化を推進し、栽培技術を体系化。収穫量や品質が向上。(収穫量 枝豆1.9t・大豆3.6t(H16)→枝豆22t・大豆50t(H24))



枝豆・脱莢機の導入



宣伝パンフレット

## 大崎さつまいも「かほっくり」の商標登録支援 (石川県)

- 普及組織は、大崎さつまいもの商標登録を農業者等に提案。
- 普及組織のコーディネートにより「大崎さつまいもブランド検討会」が開催され、「かほっくり」の名称で商標登録。(販売金額 1,340万円(H17)→2,478万円(H23))

### (連携体制)

県央農林総合事務所(普及センター)、県農林総合研究センター、大崎園芸生産組合(生産者組織)、JA、かほく市、発明協会石川県支部

### (普及組織の取組)

- ・ブランドイメージが品質評価や価格形成に影響することを生産者に説明し、商標登録を提案。
- ・発明協会の協力の下、商標登録の法令、取得手続き、必要経費等を整理して農業者等に説明。
- ・優良母本を選抜し、試験場に依頼してウイルスフリー苗の確保・増殖を推進。



かほっくりの出荷箱



かほっくりを使用したソフトクリーム